

(6) 1歳6か月のころ

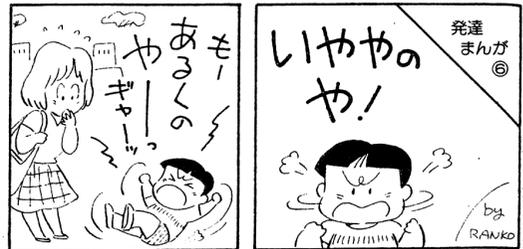
●好奇心いっぱい、
1日中何かにチャレンジしています。
足腰が丈夫になり、1歳半頃までの間にほとんどの子どもが歩き始め、やがて、走ったり、跳んだりできるようになっていきます。また、外に出て少し高い所や溝、水たまりなどを好んで歩くようになります。

ボクのチャレンジ精神を応援してね。
この頃のボクは、なかなかじっとしていられないんだ。だって、やりたいことが一杯なんでもん。もちろん失敗ばかりなんだけど、失敗をバネにしてがんばるんだ。だから、ママ、パパも勇気をもって見守ってね。

●道具を使えるようになります
この頃からスプーンですくって食べる、コップを持って飲む、又えんぴつなどでなぐり書きをする、スコップで砂をかきよせるなど道具を使うことができ始めます。上手に使いこなせなくても、お父さんお母さんと同じようにしたりしますので、励ましながらさせてあげましょう。

こんな遊び、だーい好きっ！
土いじりや砂遊び、水遊びやお絵かき、わらべ歌遊びなんか、だあーい好きっ。なぜ？って。それは、素材が変化するからさ。ボクのすばらしい創造力が頭の中でふくらんで、遊びがどんどん広がるんだ。キャラクターもののおもちゃは、つい欲しがらんだけど、すぐ飽きちゃうんだ。だって遊び方が決まってるんだもん。

●自我が芽生え、
自己主張が強くなります。
自己主張が激しくなり、どんなことにでも「イヤッ」といって反発します。何でも自分でやりたがる傾向がますます強まります。また、要求が通らないと激しく怒ったり、反抗したりします。



3歳くらいまでは我慢は大の苦手です。
買い物の時におねだりしたり、お菓子を欲しがったり、わがままに手をやきます。大人の言い分を押しつけるだけでは、解決しません。何でも「自分が」の時期なので、二つの中でひとつを決定させる場面を用意してあげると、自分が決定したことで気持ちを落ち着かせることができるようです。



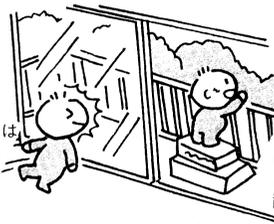
◆ 事故

行動範囲も広がってきますし、興味もいっぱいです。事故もふえてきますので危険な物や危ないことは教えてあげましょう。

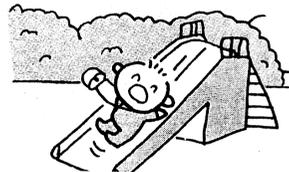


階段
上り口や下り口に
柵をつける

ガラス
透明なものには
シールを貼る



ベランダ
踏み台になる
ようなものは
置かない



すべり台
ひものついたカバン
などははずす

◆ この時期のおっぱい

1歳半を過ぎてても、おっぱいを欲しがる子どもをみると、「ずっと、このままあげてもいいのかしら」と不安になるお母さんもいらっしゃいます。周囲から「まだ飲ませているの?」と言われ、更に不安になるお母さんも。卒乳のタイミングはそれぞれ違います。お母さんがまだおっぱいを飲ませることが可能であり、まだ続けたいと思ったら、どうぞおっぱいをあげてください。母乳にはまだ栄養も含まれますし、おっぱいを含みながら心も安定するでしょう。

また、お母さんの体調や仕事復帰などの都合で卒乳を考えていらっしゃる方もいると思います。お子さんにおっぱいとバイバイすることを、お母さんなりの方法で伝えてあげましょう。おっぱいをほしがり、泣くこともあるかもしれませんが、お母さんの抱っこは、おっぱいと同じくらいお母さんの愛情を感じることができますし、子どもはきちんとわかってくれます。スキンシップやお子さんと遊んでみるなど、卒乳後の新たな関係を楽しめるといいですね。

◆ この時期の子どもさんの様子で気になること

※以下のような場合には健診の時に相談してください。

- ① “話しかけても無関心で応じず、目的なく動き回ったり、声かけに視線が合わない場合”

この時期は、いろんなものに興味が出始める時期なので、一見落ち着きのないような感じがしますが、話かけには応じます。

- ② 指さしをしない

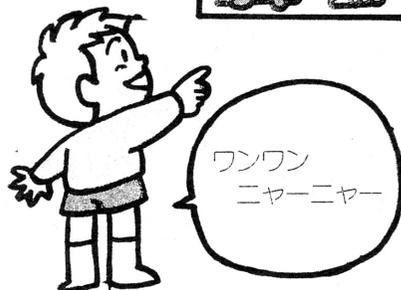
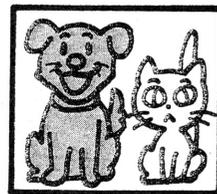
指さしはことばの基礎であるとともに、他者との気持ちの通じ合いです。

● 要求の指さし

欲しい食べ物や絵本などを指さして、お父さんお母さんに訴え、その要求を理解してもらって、手に入れようとする指さしです。

● たずねられた時に答える指さし

「ブーブーはどれ?」などとたずねられた時に指さし、たずねられた人を見て答える指さしです。子どもとお母さんが指さしを通して「そうだね」と認め合うことです。実物だけでなく絵本などでも答えられるかをみてください。この指さしができていて、お母さんの話しかけていることが理解できていれば、ことばはやがて増えていきます。



◆ トイレトレーニングについて

おむつをはずすタイミングは一人ひとり違います。

おまるにすわる練習からはじめますが、嫌がるようなら、最初からトイレに連れて行きます。タイミングよくおしっこが出たら、うんとほめます。

なお、おしっこの予告ができるようになるのは、①膀胱の容量が大きくなる、②内部感覚が高まる、③先の見通しをもつことができる、の3つの力が必要であり、2歳半過ぎてからです。

夜のおしっこも、早くて3～4歳過ぎになると考えておいた方がよいでしょう。



◆ お子さんにお手伝いをさせてみましょう！！

何でも自分でやりたがります。もちろん上手にできませんが、子どもは自分でやったことで満足できます。「お母さんのお手伝いしてくれるとうれしいな」と遊び感覚でお手伝いをさせてみるのもよいでしょう。その時、子どもの好きな繰り返し音を使って話すのもおすすめです。

- ※ お子さんと一緒にこんな「お手伝い」
- ・食器を並べる ・机を拭く「ふきふきする」
 - ・食後、食器を流し台へ持っていく「のせのせする」
 - ・食事の時人を呼ぶ「〇〇を呼んできて」
 - ・レタスなどの野菜ちぎり「むきむきしましょう」
 - ・洗濯物を干すときにしわをのばす「パンパン、ピンピンしよう」
 - ・洗濯ばさみでとめる「パッチンして」



★ 子どもさんの悩み事 Q & A

Q 哺乳びんが離れません。どうしたらいいでしょうか？

A 歯が生えてきていますので、離すようにしたほうがいいと思います。しばらくは泣くと思いますが抱っこしてあげたり、優しい声かけをしてあげたりと心の支えを大切にしてください。

Q むらぐい、遊び食いをします。どう接したらいいでしょうか？

A 少々の遊び食いは仕方ないと思いますが、あまりダラダラのようなのであれば、ある程度時間を区切ってかたづけすることも必要かもしれません。おやつを食べ過ぎや飲み物の飲み過ぎもむらぐいの原因になりますので、食事の2時間前にはあげないようにするなど気をつけてみてください。

Q 夜寝るときに一緒にいないといけません。独り寝はいつぐらいからですか？

A 添い寝や指しゃぶり、ガーゼをもって眠りにつくなど入眠儀式はそれぞれです。昼間は親から離れて飛び回っていても夜になれば、お母さんにすがりつきたいものです。独り寝を強制したりせず、子どものそばにいて安心させてあげることが大切です。

Q 疲れている時など、聞きわけのない子どもにイライラして、無意識に手をあげてしまします。これは幼児虐待じゃないかと自分が恐ろしくなります。

A 完璧な人間などいません。どんな親にも思いあたる悩みです。やってしまったらすぐにその後、子どもを抱きしめて、心から謝り、子どもの心をなごませてあげましょう。こどもはほっとして、きっとわかってくれるでしょう。もしカッとしたら深呼吸をひとつして、ちょっと頭を冷やしてみることを提案します。幼児虐待とは、ストレスや不満を子どもにぶつけることです。もし、叱ることに歯止めがきかなくなり、自分でコントロールできないときは、一人で悩まず、信頼できる人に悩みを話すことが解決の糸口になります。もちろん、保健師も相談に応じますので、保健センターにご連絡ください。

【市民福祉部 市民健康課（川内保健センター） 電話 0996-22-8811】